

## 20年目の春を迎えて



障害者支援施設ウインドヒルは開所20年目の春を迎えました。  
開所時に植えた河津桜、紅白のしだれ梅が今はこんなに立派になりました。

詳細は1Pへ



### ポム・ド・パンの理念

- ・障害があっても、誰からも愛される人に成長できるように、丁寧に寄り添って関わります。
- ・障害があっても、正しいことを根気よく伝えることにより、何歳になっても成長することを信じます。
- ・障害があっても、できることが増えるように、様々なことを獲得できるように、一貫性をもって、継続して支援します。
- ・障害があっても、その方の得意なことを、大好きなことを見つけ、これを通して、生活基盤を作ります。



## 2004年(H16年)12月開所から20年目を迎えた社会福祉法人ポム・ド・パン



今年で開所より20年目を迎えることが出来ました。振り返ってみますと、様々な苦難を乗り越えこの時を迎えることが出来ました。これも皆様方のご支援があつたのことに、心より感謝いたしております。

現在の法人の土地は、養鶏所跡地で、当時はプロイラーが1万羽いた土地(約6600坪)を提供して頂きました。この土地は、岩盤が固く、杭打ちが進まず、整地、建設には大変苦勞致しました。地盤の固さは、想像以上のものであり、専門家の方が、驚くほどでした。過去の震度1、震度2等の報道があつても、揺れは全く感じませんでした。

ウインドヒルの利用者様は、自閉症の中でも強度行動障害と言われる方が8割を占めています。2011年、世界自閉症啓発デー・日本実行委員会委員長、日本自閉症協会会長であった今は亡き、石井哲夫氏の文章をお借りします。自閉症は、脳の機能の状態から「人との関わりがうまくできない」「気持ちや感情がうまく伝えられない」「他人の言葉の意図が分からない」「こだわり」「社会のルールがなかなか理解できないことがある」などアンバランスに発達することなのです。自閉症は、「常に殻に閉じこもっている状態」と考えられたりしますが、これは誤解です。「社会参加に必要な言動を身につける」「常識は多くの人にとって自然に身につく」という過程の発達が極めて遅いのです。その反面、「純粹」で自分の感じたままに話したり、行動したりします。このような自閉症の利用者様とともに喜怒哀楽を共に20年を迎えました。それぞれの方の障害特性が多様であり、椅子に座ることも困難であったことが今となっては懐かしく思い出されます。

法人の取り組みとして、【座る・待つ・聴く】を身につけることがまず当面の課題であり、スタートでした。あまりにも多動な行動に困惑することも多々ありました。1分、5分座れることができなかった現実は、過去のものとなり、今では、1時間のイベントにも参加できるほどに成長されました。豊かな生活、生活機能の向上、ライフスタイルの確立、健康面の配慮、様々な暮らしのニーズの検討をしながら20年という年月を費やしました。利用者様との日中活動、夜間の生活の場をもって、個々の利用者様への総合的なサービス提供に向けた支援を継続しております。

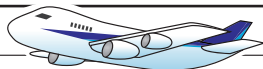


利用者様は、人との出会いや様々な経験を通してご自身の意思を形成し、成長が見られます。法人では、開所以来、さまざまな社会体験を重ね成長の可能性を信じて、対人援助を基本的な考え方として職員一同が共有し、本人の特性を十分に理解し、受容しつつ、その上で適切に関わることを目指してきました。

楽しい時間を過ごした旅行、行事は、利用者様と保護者さんとの貴重な体験として心に残っていることでしょう。同時に職員も大いに楽しませていただきました。

今後も皆様のご理解・ご協力をいただきながら、職員一丸となって労働・生産活動・創作的な活動や社会的な活動の取り組みを行い、一貫性のある、継続した支援を行って参ります。今後とも変わらぬご支援をよろしく願いいたします。

社会福祉法人ポム・ド・パン  
障害者支援施設ウインドヒル  
管理者 松原正子

## 2004年12月開所から県外等の社会体験行事一覧(抜粋)

2005	H17	11/29	淡路島 イングランドの丘	
2006	H18	2/2	スケート サンピアさぬき	
2006	H18	3/2	大山スキー	日帰りでしたが、ソリを楽しみ、初めてスキーの板を履いての初体験スキーで大いに盛り上がりました。
2007	H19	5/30～31	湯原温泉旅行	
2007	H19	7/13	国立ポリシヨイサーカス観賞	
2008	H20	2/25～26	東京ディズニーリゾート2日間	
2008	H20	4/18	別子銅山と砥部動物園	2006年12月23日生まれの愛浜(アイヒン姉)・明浜(メイヒン弟)が愛くるしく、たくさんのパンダと逢いました。
2009	H21	3/5～6	関西空港見学とアドベンチャーワールド2日間	
2010	H22	3/17～18	湯布院温泉と九重「夢吊大橋」2日間	2004年3月13日九州新幹線が部分開業し、その後2011年に全線開業となりました。そこでこれを機会に「九州新幹線に乗ろう」との思いで計画をしました。指宿の砂風呂は圧巻でした。そんな九州新幹線もウインドヒルと同じく今年で20年を迎えます。
2010	H22	4/17	広島 世羅高原	
2010	H22	5/14～15	カラオケ列車で行く「土佐龍馬であい博」	
2011	H23	7/7～8	九州新幹線で行く鹿児島 指宿温泉2日間	
2011	H23	10/4	木下サーカス観賞	
2011	H23	12/2	海遊館とインスラントラーメン発明記念館	
2012	H24	12/19～21	沖縄旅行2泊3日の旅	

# 世界自閉症啓発デー

自閉症を知っていますか？「人のかかわりがうまく出来ない」ことや「気持ちや感情がうまく伝えられない」「他人の言葉の意図が分からない」「こだわり」「社会の規則がなかなか理解できない事がある」などアンバランスに発達する事です。

平成19年12月18日の国連総会において、毎年4月2日を「世界自閉症啓発デー」(World Autism Awareness Day)とすることが決議され、全世界の人々に自閉症を理解してもらう取り組みが行われます。

これに対応し、世界自閉症啓発デー・日本実行委員会が組織され、自閉症をはじめとする発達障害について、広く啓発する活動を行っていくこととなりました。

更に、世界自閉症啓発デー・日本実行委員会では毎年4月2日～8日を発達障害啓発週間として、発達障害についての啓発活動を行っていくこととしました。

香川県内でも10か所の施設にて啓発週間の間、ブルーライトアップを実施致します。また県庁本館1Fギャラリーにて支援団体の紹介や、自閉症の方の作品等を展示致します。

今年度はコロナ禍により自粛しておりましたパレード及び啓発キャンペーンを実施することになりました。

令和6年4月2日(火曜日) 11時45分に県庁前を出発し、商店街を回り市役所までのパレードを行います。ご賛同いただける方はどなたでも大歓迎ですので、是非一緒にパレードに参加してみませんか？宜しくお願い致します。

自閉症の人たちは「社会参加に必要な言動を身につける」「常識は多くの人にとって自然に身につく」という過程の発達が極めて遅いのです。その反面「純粋」で、自分の感じたままに話したり、行動したりします。感覚や記憶が抜群な人もいます。この自閉症の人たちの立場に立って、その行動や態度や意味を理解し、愛情をもって支援して欲しいと思います。

自閉症の人たちは、周囲の愛情と支援によって大きく育つことが出来ます。

今後、一人一人の理解が深まり、自閉症の人々にとっても暮らしやすい社会になることを願っています。

《一部 世界自閉症啓発デーパンフレットより抜粋》



旧善通寺偕行社(2023年)



四国学院大学 礼拝堂(2023年)



JR琴平駅(2023年)



観音寺市 銭形砂絵(2023年)

# ペアレントメンターの会 について 1月24日

令和6年1月24日 社会福祉法人 香川こだま学園より「高松市発達障害者サポート事業」の一環として園児の保護者を対象とした「ペアレントメンターの会」を開催案内と、ペアレントメンターとして講師の依頼を受け、管理者 松原正子がペアレントメンターを務めました。

ペアレントメンターの会・・・発達に遅れのある幼児の保護者の悩みや不安に対し、メンター（先輩保護者）さんから、経験談やアドバイスを頂きます。また、メンターさんのお子さんの現在までの様子についてお話ししていただくことで、保護者の悩みや不安が少しでも軽減し、わずかでも先の見通しが立つようになることを目指しています。

今回参加された方は毎日通園（未就園児）の保護者様 10名程度で、言葉の理解が難しいお子さん、発語はまだのお子さんとその保護者の方々です。

参加された保護者さんから感想を頂きましたので、紹介いたします。

・貴重なお話を伺う機会でした。ありがとうございます。

「人（社会）に受け入れられる子に育てよ」という言葉に、改めて身の引き締まる思いでした。

それを実現するために、親の心構えが欠かせない要素であると感じました。

子と二人三脚でこれから頑張っていきたいと思います。

・松原さんのご自身の経験を基にお話くださったので、とてもいい時間になりました。

「将来社会に受け入れてもらえるために・・・」とお話くださった内容は私の考え方とはちょっと違いましたが、とても大切な事で、社会に出る時までには本人に身に付けさせておかなければと思いました。定型発達の子供とは違い、何百回、何千回言っても分からない事は当たり前！一つ出来たら次ではなく、色々なことを時間をかけて身につくように関わっていきたくと思いました。（このお母さんはご自身のお子さんを今後、地域が、支援学校かで悩んでいて、子供を地域で育てる事につらい思いをするかもしれない不安がある為、少し考えが違うとの感想の様です）



## デリバリーアーツ2023 「讃岐国分寺太鼓」 11月29日

令和5年11月29日地域交流棟にて「讃岐国分寺太鼓」の公演を地域の方をお招きし、実施いたしました。この公演は高松市が主催し、公益財団法人高松市文化芸術財団が企画・実施する「デリバリーアーツ2023」の協力団体募集に応募し、開催が決定したものです。

複数ある公演のラインナップよりウインドヒルでは「讃岐国分寺太鼓 和・心・響. 感」開催を希望しておりました。和太鼓の生の演奏を目の前にして、力強いバチさばき、体中に響いてくる音に感動すら覚えました。演奏される方は男性2名、女性7名で特に女性の太鼓を叩く姿に勇ましさを感じました。公演時間は1時間と短めでしたが、利用者様も含め来場された方は普段見ることのない、和太鼓の生演奏を肌で感じて大変喜ばれたと思います。

これからも地域の皆様に身近に感じてもらえる施設となるべく、様々なイベントを可能な限り行っていきたくと思います。

### デリバリーアーツ

文化や芸術を身近に気軽に感じてもらうために、いろんな公演の出前を無料で行ってあります。



## 香川県知的障害者福祉協会 施設交流卓球大会に参加 12月6日

令和5年12月6日 高松市総合体育館にて9施設62名の利用者様が参加されました。

約1か月前より、この大会に向けて参加予定の利用者様は練習を重ねてきました。日々の日課の合間での少ない練習の中で自信をつけていきました。大会が始まると、利用者様は試合に集中し、自分の試合の無い時でも座って待っており、終始リラックスした状態で楽しんでいました。勝ち進んでいくにつれて中にはウインドヒルの利用者様同士の対戦もあり、大変盛り上がりました。そんな中、朝日氏が順調に決勝戦にまで勝ちあがりました。両者手に汗を握る試合に声掛け応援し、手を叩いて盛り上げていました。惜しくも2位でしたが十分価値のある準優勝です。利用者様はまた来年参加できることを楽しみに会場を後にしました。来年はウインドヒル内での優勝争いが出来るような大会にしたいと思いました。



# 九州・山口・四国自閉症施設協議会 職員研修会報告

11月30日  
～12月1日

令和5年11月30日～12月1日に「九州・山口・四国自閉症施設協議会 職員研修会」を4年ぶりに開催いたしました。令和5年度はウインドヒルがホスト施設となり、2日間ではありますが、この研修会が実りのある物であり、ウインドヒルしかできない思い出の残る計画を立案し、実施いたしました。



8施設（九州6施設、山口2施設）30の方がウインドヒルに来所くださいました。12時に集合し、研修棟で開会式、その後、施設見学をしていただき、分科会、施設長会に分かれ勉強会を実施致しました。分科会は「経験からくる利用者様の支援の成功例」をテーマに揚げ、2グループに分かれて、各施設の代表の方が発表した内容を基にディスカッションを行う形式で行いました。皆さんそれぞれの施設の特徴を生かした支援をされており、大変勉強になりました。施設長会ではそれぞれの施設で今抱えてる課題等を共有し、意見交換いたしました。

二日目はうどん県らしいおもてなしで「うどん打ち体験」をしてもらいました。やはり香川に来るからには讃岐うどんを目的とされてる方が多く、楽しみにされてるようでした。皆さん初めての経験で、非常に楽しい時間を過ごされていたのを見て計画してよかったと実感しました。コロナ禍で集合での研修会が出来なかったのですが、今回無事に開催できたことを御礼申し上げます。



## 令和5年度「交通安全優良事業所表彰」 （全国表彰）の受賞決定

1月16日  
～1月17日

今年度 高松南交通安全協会事務局より「交通安全優良事業所」として上申していただき、受賞が決定いたしました。香川県で唯一「交通安全優良事業所」として選定され、令和6年1月16日・17日の東京で開催された「第64回交通安全国民運動中央大会」において表彰されることとなり、管理者が出席致しました。秋篠宮皇嗣殿下、岸田内閣総理大臣、額賀衆議院議長などの来賓者が出席され、一日目は交通事故防止の講演、交通安全対策についての意見交換をする分科会。二日目は各受賞者の授賞式があり、表彰状と記念の盾を頂きました。

日頃からの安全運転に対する意識、交通安全のキャンペーンに対する取り組みが評価された賜物だと思います。これからも地域社会の一員として、より一層安全運転に取り組むことを改めて決意いたしました。





## 利用者健康管理 2023年11月14日(火) インフルエンザ予防接種

看護師 松本 ひろ子

のむら内科循環器科消化器科クリニックの野村先生、看護師が来所され、インフルエンザの予防接種を行いました。私自身も初めて予防接種に立ち合う事になり緊張していました。接種される利用者様方もさまざまで「注射されるのがわかっている人」「いつもとかわらない人」「何かわからないが不安でいっぱいの人」といろいろな表情の利用者様がいました。職員の連携もあり次々と流れ作業のように進んでいき、あっという間に接種が終わっていました。自分の接種の番がくるまでウインドヒルの基本の取り組みである「座る、待つ、聞く」が出来ている事は、普段から利用者様と正しく関わられているからだと思います。



## ひな祭り会

2024年3月5日

利用者様全員で交流棟に移動し、楽しいひな祭り会を実施いたしました。

この日を楽しみにしていた利用者様もいて、皆と一緒に鳴子を使った手遊びをしたり、歌を歌ったり、終始ニコニコして楽しそうでした。配られたお菓子を美味しく食べる姿を見て嬉しくなりました。これからも利用者様の為に楽しいイベントを開催していきたいと思ひます。



## 協定福祉避難所体制整備に係る連絡会について

近年の地震や台風、集中豪雨等の影響により、全国各地で大規模災害が発生しており、高松市においても災害に備えた体制作りを強化していく必要があると考え、福祉避難所として協定を締結している福祉施設の役割と運用について理解を深めていき、連携強化のために連絡会を開催する運びとなりました。

協定福祉避難所は、災害時に必要に応じて開設される避難所であり、最初から避難所として利用することはできなく、まず、指定避難所へ避難し、指定避難所福祉エリアでの生活が困難である場合には、災害時に要配慮者を受け入れることについての協定を締結している社会福祉施設等に対し、協定福祉避難所の開設を要請し、そこで初めて避難所としての役割を果たします。

**1回目 令和5年7月31日 サンメッセ香川** 2階大会議室にて、高松市健康福祉局、高松市社会福祉協議会の方が議事進行を務め、「指定避難場所開設までの流れ」「南海トラフ巨大地震の被害想定などの説明」「福祉避難所の目的・役割」の説明を受けた後、出席者を7グループに分けて、グループワークを実施しました。南海トラフ巨大地震は今後30年以内には70%から80%の割合で発生すると言われております。福祉避難所としてクリアしないといけない課題はまだたくさんあります。

**2回目 令和5年11月17日 高松市社会福祉協議会** 東館2階にて、1回目同様、高松市健康福祉局、高松市社会福祉協議会の方が議事進行を務め、「福祉避難所に関する理解の熟成及び意識の向上」「有事の際における福祉避難所の円滑な運営」「平常時からの関係機関等の連携強化」「開設・運営マニュアルに関する協議」を目的に開催されました。

「高松市 福祉避難所等 開設・運営マニュアル」案が提示され、その内容についても吟味されました。

**3回目 令和6年1月25日 サンメッセ香川** 2階大会議室にて、高松市健康福祉局、高松市社会福祉協議会の方が議事進行を務め、前回提示のあった「高松市 福祉避難所等の開設・運営マニュアル」の修正案の説明、「福祉避難所開設から閉所までの簡単なロールプレイ」「香川 DWAT についての説明」が行われました。説明を受けながら実際の災害時にはマニュアル通りにはいかないかもしれないとの事で、本当にその通りだと思います。基本的な流れ「手続き」は崩さず、事態には臨機応変に対応する必要があり、それ相応の準備をしておかなければいけないと実感しました。マニュアルは今年度中に完成予定とのことです。

今後さらに深い内容の研修であったり、訓練も計画しているようです。ウインドヒルでも「災害用のBCP」の作成も今現在進めております。本連絡会につきましては新たな情報が入り次第順次お知らせいたします。



# 職員研修



2023年11月27日

「スタッフのためのヘルスケア」

臨床心理士 後藤 見知子 氏

臨床心理士 後藤見知子先生を講師にお迎えし、虐待防止研修の一環として、職員の心のヘルスケアの観点から講義をしていただきました。「ストレスコーピング」という言葉を習いました。ストレスに上手く対処しようと意図的に行うことを言います。

虐待を防止するには、関わる職員が心身ともに健康である必要があり、その為には「自己肯定感」を高めないとはいけません。「自己肯定感」は自分の長所や好きな部分はもちろんのこと、短所や嫌いな部分も自分を構成している一部分であると受け止めて、そのまま良いと認めてあげる感覚を指します、自己肯定感とは自分自身の良いところ・悪いところ全部を肯定することで生まれます。自己肯定感を持つことによって自信が生まれる事を学びました。

2023年12月25日

「自閉症の行動障害 その理解と対応」

香川県発達障害者支援センター アルプス香川センター長 新井 隆俊 氏

香川県発達障害者支援センター アルプス香川 センター長 新井隆俊氏を講師にお迎えし、自閉症の行動障害について、より専門的な講義をしていただきました。「構造化」「意思決定支援」という言葉を学びました。構造化は、生活や学習のさまざまな場面で、その意味を理解し、自分に何が期待されているのかをわかりやすく伝えたり設定したりするための方法で、特に「自閉症教育」の中では、従来から重視されてきた教育方法です。

意思決定支援は障害者自らが意思を決定することが困難なことが日常生活において、自らの意思が反映された生活を送ることが出来るように、可能な限り本人が意思決定できるように支援する事を学びました。

2024年1月15日

「感染症について」

高松市役所 今井 直子 氏 秋山 朋香 氏、嶋田 梨央 氏

高松市保健所感染対策課の今井直子氏、秋山朋香氏、嶋田梨央氏3名をお迎えして、感染症予防研修を実施しました。感染症としてあげられる主に3つの飛沫感染、空気感染、接触感染を詳しく勉強し予防策としてあげられる手洗いマスク、消毒、換気の正しい方法や、吐物処理時に必要な物、手順等を実演も交えながら教えて頂きました。ウイルスや菌は目に見えないだけに発症してから気づく事が多く、集団生活の中では発症後いかに最小限におさえるかが鍵となります。職員一人一人の意識はもちろん、連携を取り合っって対応していく大切さを感じました。この研修会から日頃からの体力作りと予防を徹底し、利用者様の健康維持に努めたいと思います。

2024年3月11日

「よりよい介護のために

口腔ケアの事を学んでみませんか？」

医療法人社団駿陽花 しもむら歯科医院 院長 下村 隼人氏  
衛生士 谷本 早紀氏

医療法人社団駿陽花 しもむら歯科医院 下村隼人先生、衛生士 谷本早紀氏をお迎えし、お口の中の健康を保つことは、身体はもちろんの事、心も健康になることを学びました。先生には是非もう一度おいでいただき、「人としての心構え」についての観点からの講義を聞いてみたいです。



## 利用者作業 エコポット



一般、大変お世話になっている方より、500個ものエコポットの注文を頂きました。

利用者様がそれぞれの役割に分かれて一生懸命作成作業をしてくれています。

エコポットは県や市からシュレッダーした物をいただき、それを水と混ぜて「まぜろうくん」でかくはんさせ、色物

を入れて「はちろうくん」の機械を使って圧縮し形を整えて完成です。利用者の皆さんは、その人その人の出来ることを生かして作業に取り組んで作っています。

形はえんぴつ立て、ハチ型、うす型の3種でさまざまな色があり、小物入れや、花をかざったりなど、色んな使い方色んな場所で使ってもらえると思います。



# 畑にてじゃがいも収穫

主任生活支援員 松田 仁美



昨年10月に「橋本種苗園」様よりご提供いただき、利用者様と一緒に植えたじゃが芋の種芋が、新しく実り収穫する時期になりました。収穫を実施する前、一番に軍手をきちんと履いているかを確認し、それぞれの利用者様の特徵に応じて、どこまでできるかを大まかに役割を考え配置しました。芋の茎の周りにしてもらい、職員と一緒に土をやさしく手で掘りながら、少しずつ掘り出していきました。掘っている時、土が顔にかかりながらも手は止まることなく掘り続けていました。掘り上げたじゃが芋を「こんなにも大きなのがあったよ。」「いっぱいついてるよ。」「小さくてかわいいのもあるよ。」と職員が声を掛けながらの収穫です。



利用者様からも「大きい」「いっぱい、いっぱい。」「じゃがいもあった。」等嬉しそうに答えくれました。

利用者様との土いじりをしながら楽しい時間が過ごせました。収穫したじゃが芋は三谷コミュニティセンター、仏生山コミュニティセンター、花園コミュニティセンターに置かせていただきました。持って行けばすぐに売り切れ、次回入荷を楽しみに待っていただくくらい好評でした。また来年も喜んでいただけるよう利用者様と一緒に植えていきたいです。

## 社会福祉法人ポム・ド・パン後援会会員

敬称略・順不同

### ●令和5年度個人会員

富田 ト工 松田 展和 岩田 武 白川 文子 宮本 健子

令和5年11月21日～令和5年12月28日現在、以上の方々に継続及び新規にご入会して頂きました。  
令和6年1月1日以降にご入会の方々は、次回の会報にお名前を掲載させていただきます。本当にありがとうございます。

## 社会福祉法人ポム・ド・パン後援会のご案内

社会福祉法人ポム・ド・パン後援会は、当法人が運営する障害者支援施設「ウインドヒル」をサポートしています。今後長期にわたり、利用者一人ひとりを大切にしたい理想的な療育を行い、施設の整備を継続的に発展させてゆくには、より多くの方々のご支援を必要としております。

何卒、私達の趣旨をご理解いただき「社会福祉法人ポム・ド・パン後援会」にご入会下さいますようお願い申し上げます。

なお、すでに会員の方には毎年年度初め4月1日付で継続お願いのご案内と振込用紙を送付しております。よろしくお願いたします。

[年会費] 個人会員 一口3,000円 団体会員 一口10,000円

[ご入金方法] 郵便振替 口座番号 01690-3-74305 口座名称 社会福祉法人ポム・ド・パン後援会

## あたたかいご支援、本当にありがとうございました

### いつもご支援ありがとうございます

JF卓球クラブ	香西 由紀恵様	荒井 雅和様	
高松パイロットクラブ	森田 京子様	香西 正恵様	黒川 美葉様
シュレッダーゴミ回収	高松市 障がい福祉課様		
	香川県 障害福祉課様		

社会福祉法人ポム・ド・パンのホームページです。

当法人からのお知らせやウインドヒルでの取り組みなどを随時更新しています。



社会福祉法人ポム・ド・パン

### 編集後記

今回の会報発行に関しては、数ある記事の中から皆様にお知らせしたい内容を厳選し、まとめさせていただきました。今年、開所20年目を迎えるにあたり、冒頭に管理者の言葉を入れております。この20年の道のりは決して楽しい事ばかりではなく、大変な苦労があったはずですが、まだまだ道半ばで、その先にはゴールはなく、永遠に続く道で、決して歩みを止めてはいけません。編集者の私もその中の一員として、一日一日を大切に日々精進していきたいと思っております。



松ほっくりのポムです。



松ほっくりのパンです。